



知れば知るほど奥が深い

お米作りのきほんの **き**

～ レベルアップ編 秋の田起こしとひめの凜について ～



収穫は終わりましたか？
 収穫後、田んぼをそのままにいませんか？
 この時期の田起こしがなぜ必要か再度確認しましょう！
 また、愛媛県の新しい品種「ひめの凜」について学んでみましょう。
 管内では、早期米の面積が多く、最近では中生品種の米も増えたりと多くの品種が栽培されています。“おいしいお米”と気になっている「ひめの凜」は、中生品種で栽培期間が長いものになります。まだ、栽培するには制約があり誰でも作付けすることはできませんが、ご紹介します。

秋の田起こし



圃場を耕すことにより、空気が入り微生物の動きが活発になりワラなどの分解を早めることが出来ます。深く耕す必要は無く、むしろ浅く荒くするだけで良いです。そうすることで、田植えの時にワラが浮かずに田植えがしやすくなったり、ワラが分解されるときに出るガスの発生が無く、初期成育が良くなり丈夫なイネになります。そのため、気温の高い稲刈後の時期にワラを一緒に耕してしまいましょう。稲わらを腐植させる資材と一緒に入れるとさらに効果が高まります。
 (石灰窒素・根友G・アグリ革命アクア 他)

ひめの凜

品種特性

形態的特徴

- 葉色はやや淡く「にこまる」と同じくらい
- 脱粒しにくい
- 茎は少し固めで少し太く「ヒノヒカリ」と同じくらい
- 「ヒノヒカリ」「にこまる」に比べ背が低く穂が長い、穂の数はやや多い

生態的特徴

- 出穂期、成熟期ともに「ヒノヒカリ」より4日遅い
- 倒伏はしにくく「ヒノヒカリ」「にこまる」と同じくらい
- 高温年の収量・品質は「ヒノヒカリ」より安定している
- いもち病には「やや弱」となっているが管内では弱い
- 食味評価は高い

栽培上の注意



中干し



田植え
 5月中旬
 5月下旬

田植え後30日から

収穫
 10月上旬
 10月中旬

- 低温年では成熟が遅れ登熟不良になる恐れがあるので**6月15日までの移植**にする
- 栽植密度は**坪50株**を基準とする
- 疎植は分けつ過多となり籾の充実が揃わなくなるので避ける
- 過繁茂を防ぐため**田植え後30日から中干し**を始める
- いもち病には弱いのでしっかりと防除を行う

栽培の申し込み

毎年10月頃から申し込みが始まります。
 興味のある方は、ぜひ愛媛県のホームページをのぞいてみてください。
 昨年栽培された方は、県もしくはJAから申請書が送られてきますので忘れずに確認してください。
 すべての生産者が栽培できるとは限らないのでご了承願います。

問い合わせは西予農業指導班まで TEL0894-62-0407 FAX0894-62-5543